

平成24年度 デイサービス部門 事業報告

重点目標

- ①ご利用者のニーズへの迅速で真摯な対応と関係機関との連携の強化
- ②組織内の連携の強化及びサービス内容の充実
- ③職員の資質向上
- ④環境整備
- ⑤その他

総括

平成24年度は3年に一度の介護報酬改定が行われた重要な年であった。今回の改定ではサービスの時間帯改定など従来のサービス体制を根本から見直さなければならないほどの大きな変更があり、当施設の特色であった機能訓練に関する加算も断念せざるを得ないなど厳しい状況の中でのスタートとなった。幸いにも早くから新サービスへ向けてのシミュレートを行っていたため、改定後の影響としての減収はなく、またご利用者においても混乱なくスムーズにサービス体制を移行することが出来た。

24年度も年間を通じ 24名(利用再開者 1名を含む)の新規のご利用があったが、同時に20名を超える死亡・長期入院・入所などによる利用終了、入院による未利用などがあった。一旦は定員いっぱいの30名になる日も出、利用者数が一日平均24名という月があったにも関わらず、その後、上記事由による利用者様減少のため、ふたを開けてみれば平成22年度後半から続く利用者様減という状況は変わらず、年度終わりには一日平均20人を切るという危機的状況となった。その様な状況ではあったが、体験や新規利用申し込み状況からみると、近隣の同種事業所(高齢者住宅など入居施設を含む)との競合により新規利用者の獲得は依然厳しい状況にあるものの、ゆるやかではあるが回復傾向にあり、平成23年度を底と考えれば危機的状況からは脱却しつつあると思われる。今後も新規利用者確保対策を最重要課題として取り組んでいく所存であるが、その一環として従来より行っていた出張体操を広域化する取り組みとともに、夏に2回、春に1回の計3回、一般向けに介護予防体操体験講座(無料)を行った。この講座に関して、広報活動に力を入れた結果、地元地域を越え広域に亘って福祉拠点としてふじの郷が認識され、これは今後、実のなる成果として見えてくるのではないかと思われる。

組織内の体制強化については、今年度も引き続き主役はご利用者であるという基本姿勢を柱とするミーティングや研修等を行い、強力に推し進めてきたこともあって、ご利用者の状態やニーズに即した迅速できめ細かいサービスを行うことができた。施設全体としての意識の徹底と実践は向上しており、利用者主体の現場実践は深まりが出てきたが、スタッフ個人レベルでの実践の有無に関しては今後も見極めと適切な指導の必要がある。スタッフにおいては創意工夫を施しながらチームワークをもってサービスに取り組み、更なる

発展的発想をもって努力する必要性とともに、事業実績と比例するような創意工夫・発想を継続させるよう指導していく大切さを感じる。

最後に、今年度、デイサービスの運営について殊に考えさせられたのは、高齢者住宅との競合であった。高齢者の住まいに対する意識は社会情勢や家族構成の変化に伴って変化してきており、施設志向が高まってきている現状において、デイサービスを在宅生活を支える最前線と捉えるならば、在宅生活を維持していくための「デイサービス独自の必要性」を前面に打ち出していくことが重要であると思われる。デイサービス独自の特色・特徴・利点を探し、「デイサービスとして何ができるのか」という意識を常に持つこと、そしてそれを生かしたサービスを充実させていくことがこれからの課題であろう。ともあれ、在宅生活時間を少しでも長くすることが大局的には重要であり、心身の機能回復・維持・活性化と何よりも自宅で終末を迎えたいというご利用者の思いを実現できるよう、ますますの医療、他の介護事業者、そして地域との意識的な連携が必要となってくると思われる。

重点目標別報告

①ご利用者のニーズへの迅速で真摯な対応と関係機関との連携の強化

朝礼や終礼、スタッフミーティング等を通じて情報の共有化に努め、個々の利用者様のニーズに関係機関との連絡を密に取りながら迅速に対応した。

②組織内の連携の強化及びサービス内容の充実

- ・組織内の連携の強化については総括にも述べたが、主役はご利用者であるという基本姿勢を柱とするミーティングや研修等を行い、スタッフ間のコミュニケーション・連携の強化をはかった。
- ・機能訓練においては、平成23年度から毎月1回機能訓練に関わる職員と音楽療法士とのミーティングを行ってきたが、平成24年度より看護師を加え、更にサービス内容の充実を目指した。看護師を加えたことにより、医療面からのアプローチが強化され、より利用者様一人一人の機能に合わせた機能訓練を計画実践することが出来た。
- ・レクリエーションに関しては、デイを利用される方全体のかかわりと達成感を感じられるものとして、今期も引き続き、タペストリーの製作を行った。また利用者様からの要望を反映したレクリエーションや行事を随時企画し行った。外出については全員での外出だけではなく、時期に合わせた外出プランを考え、少人数でのタイムリーな外出を実行した。（8月蓮の花見学、9月コスモス&ひまわり畑見学）また施設の外への外出だけではなく、ふじの郷にある資源（藤棚見物等）も活用し喜んで頂けた。

（*資料）

- ・家族会や見学会に関しては残念ながら企画は浮上したが実践までは行かなかった。

③職員の資質向上

送迎時における挨拶を、利用者様、ご家族様のみならず近隣の方へも行うことを引き続

き、指示し徹底させた。ミーティングや職員研修において対人援助業務に関する内部研修を行う一方、随時、ヒヤリハットや事故報告を基にした介護技術の見直しと検討を行い、再発防止に努めた。職員が個人的に外部研修に参加することを奨励し、デイサービス職員として持つべき知識を習得し資質の向上に努めるようにした。

利用者様に関する細かな気付きを朝礼、終礼で報告することを奨励し、それに対する検討を随時スタッフ間で行いサービスに生かした。

④環境整備

椅子の購入（15脚）を予定していたところ、利用者様が以前の椅子を好まれる傾向が高いことと、補修をすれば安全に使用可と考えたため購入は見送った。

問題であった浴室からトイレへの水漏れに関しては改修工事を行い、水漏れは解消された。

また、利用者様より要望が出されていたホットパックを購入した。（これに関しては毎日5～6名の方が使用するほどの稼働状況である）

⑤その他

* 実習生の受け入れ

久留米大学（社会福祉士） 1名 （9月2日～10月4日）

久留米歯科衛生専門学校（訪問介護員2級） 16名 （10月～3月）

（*資料）

デイサービス部門主任 : 濱田美穂子